

ワクチンの医療経済評価に ついて(1)

国際医療福祉大学

池田 俊也

医療経済評価 (Economic Evaluation)

- 医療技術の「費用」と、それがもたらす健康改善等の「効果」を算出
- 複数の医療技術について、「費用対効果」を比較を行うことが出来る

分析例(1)ピロリ菌除菌

- 胃潰瘍患者のピロリ菌の除菌を行うと、胃潰瘍の再発が減る
 - 健康結果は改善
 - 再発時治療の減少により、医療費削減

分析例(2) 進行がんの化学療法

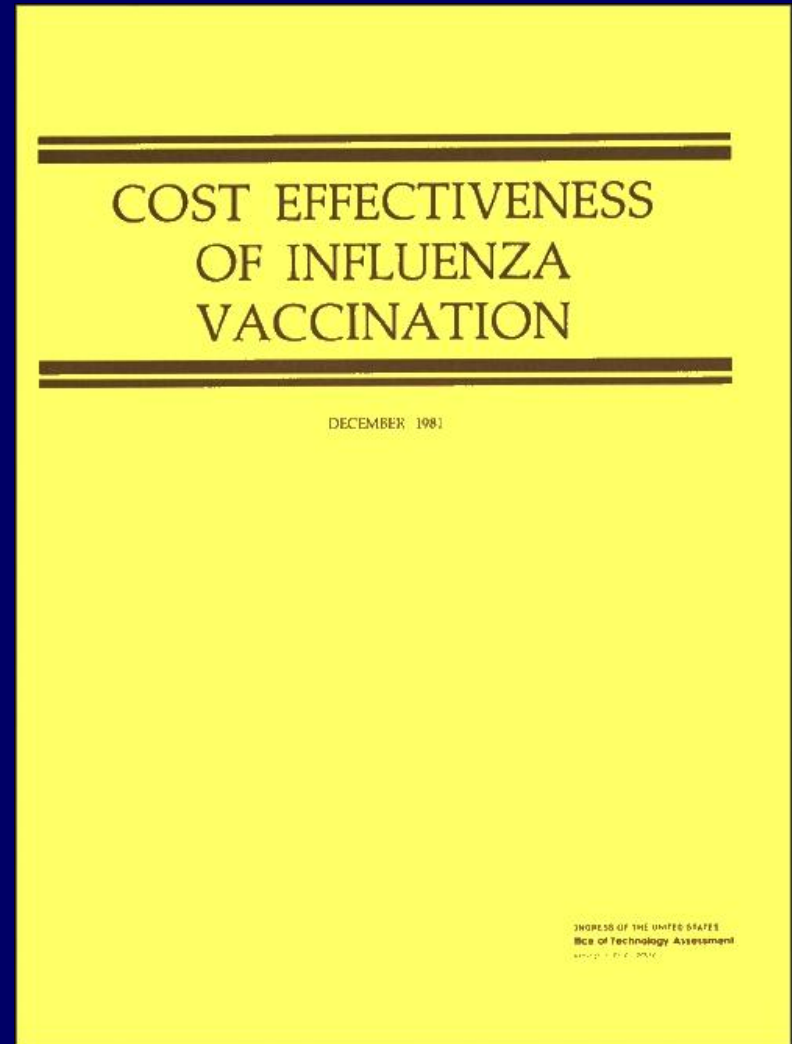
- 抗がん剤により、数週間の延命をはかることができる

→健康結果は改善

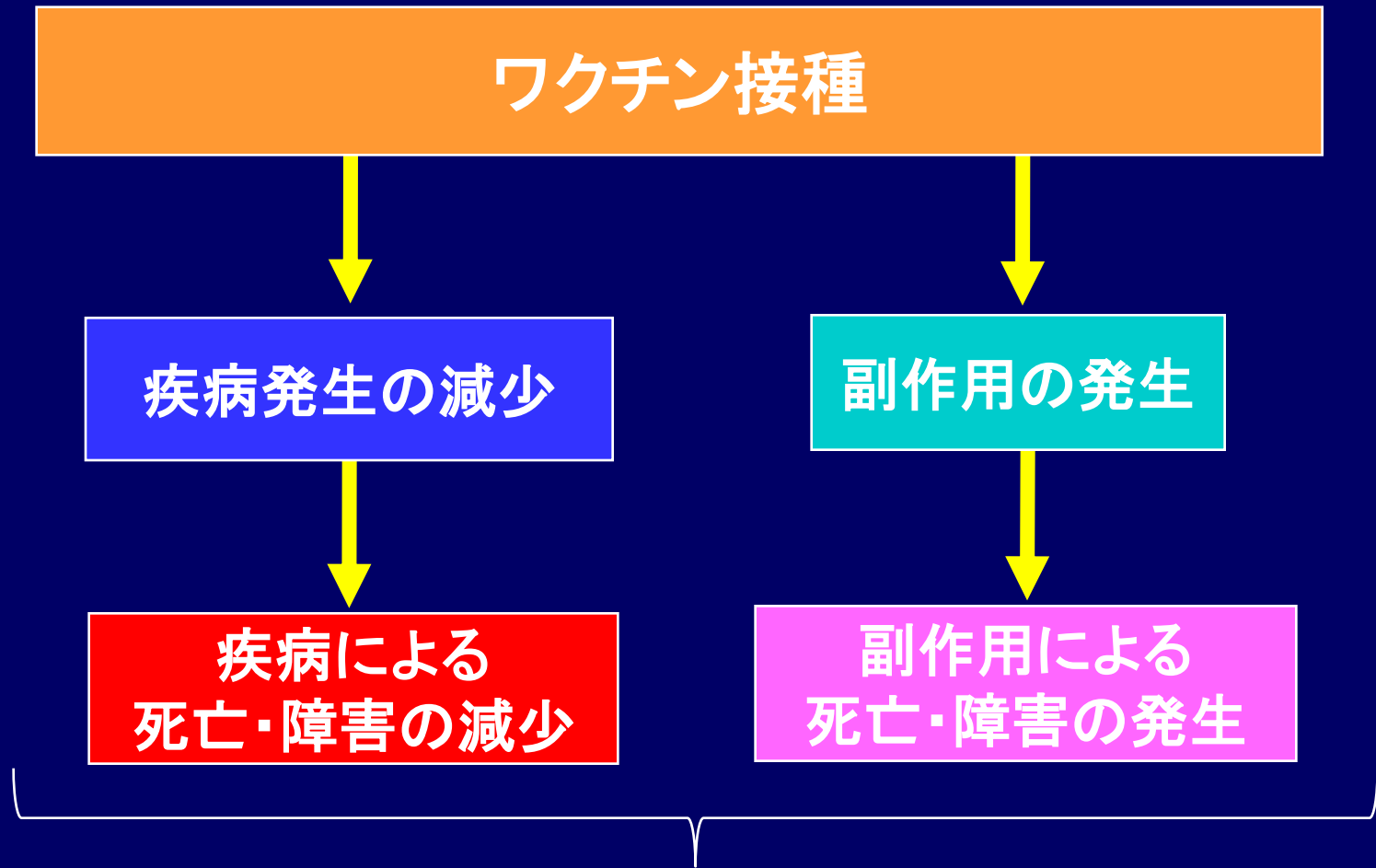
→医療費は増加

米国技術評価局(1972-1995)

- 約750件の研究を実施し、議会に提言を行った。
- インフルエンザワクチンの費用対効果分析など、医療分野の研究も含まれている。



ワクチンの医療経済評価の考え方



費用は増加？減少？
健康結果は改善？悪化？

どのような費用項目を含めるか？

■ 医療費

- ◆ 保険診療の医療費
- ◆ その他の医療費

■ 医療費以外の支出

- ◆ 患者や家族が負担する費用
- ◆ 国や自治体等が負担する費用

■ 生産性の損失

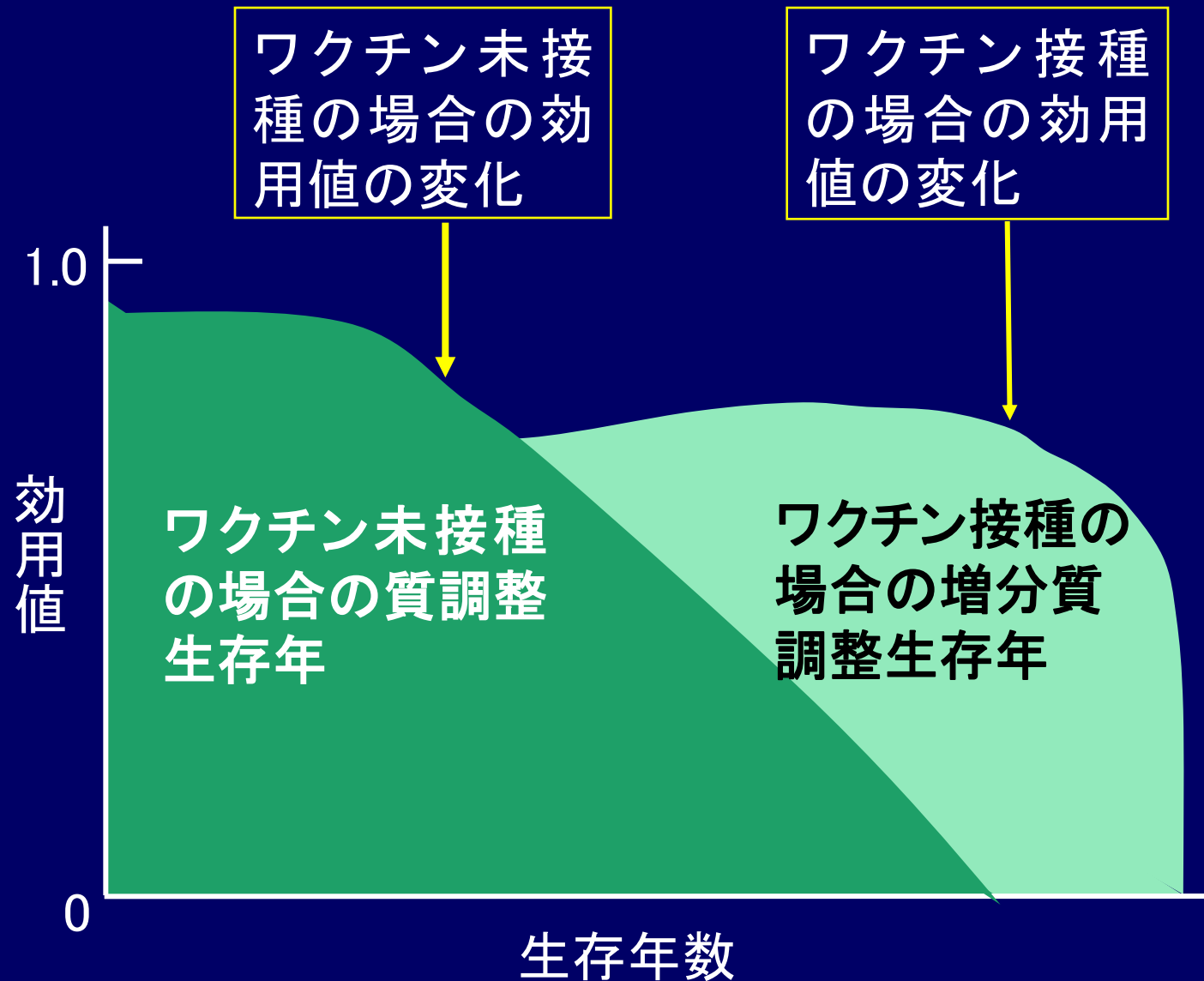
- ◆ 患者本人の休業・退職による生産性損失
- ◆ 家族等が看病・介護した場合の生産性損失

健康結果を何で測るか？

- 罹患率
- 5年生存率
- 期待余命
- 生活の質(QOL)スコア
- 健康統合指標
 - ◆ 質調整生存年(QALYs)
 - ◆ 障害調整生存年(DALYs)

※障害や死亡などの健康結果をすべて金額に換算して評価する方法を、「費用対便益分析」という。

質調整生存年(QALYs)の考え方



医療経済評価の手法

分析手法	費用	健康結果
費用最小化分析	円などの貨幣単位	(同一の健康結果であることを証明する)
費用対効果分析	円などの貨幣単位	金銭価値以外の尺度 (罹患率・生存年など)
費用対効用分析	円などの貨幣単位	質調整生存年(QALY)
費用対便益分析	円などの貨幣単位	健康結果を金銭価値に 換算